

ほうせんぼう

宝泉坊のはなし

「宝泉坊トンネル」という名前のトンネルが蜂屋町から富加町にまたがり伊深町へ続く道にあります。

トンネルがある辺りには、中世から近世にかけて「宝泉坊」という名の修験者が住んでいました。

現在、トンネルの近くには、宝泉坊を祭った祠ほくらがあります。トンネルの名前は、この修験者の名からきていると考えられます。

トンネルは、昭和37年に完成し、「宝仙坊トンネル」と名付けられ、平成16年には二代目のトンネルが完成し、現在のトンネルの名前は、「宝泉坊トンネル」となり、「仙」が「泉」と変わっています。

「ハウセンボウ」という音は同じでも、字はそのときどきで変化し、このことから地名やものの名前は、人から人へ口伝えされるものだったことが分かります。



▲「宝仙坊トンネル」工事(昭和37年)



▲トンネル近くにある祠と杉

「地名のはなし」は今回で終了させていただきます。

次回からは、「ていねいな暮らしのあったころ～佐野一彦の撮った伊深の里山～」を連載します。お楽しみに。

表紙の写真

第8回ウオークみのかも



▲「下米田さくらの森」からスタート

平成20年度第8回目となる「ウオークみのかも」が下米田町で開催され、約250人が参加し、身近な自然に親しみながら思い思いのペースで歩きました。

「ウオークみのかも」は、市民の健康増進を目的に開催される恒例行事。今回は、「下米田さくらの森」をスタートして、「諏訪神社」や「秋ヶ洞池」など、自然豊かな約5.5キロを巡り、春の息吹を感じながらさわやかなウォーキングを楽しみました。

季節のひとこま



菜の花(伊深町) 3月10日撮影